

大阪府
大阪市

2019年3月28日
大阪アーツカウンシル

大阪の文化振興に関する提案

大阪に行き交う芸術家や、その活動を支えるプロデューサー・アートマネージャー等、府民・市民、その一人一人が大阪の文化の主役です。主役たちが互いに尊重し、大阪の文化について対話し、それによって創造活動が活性化する環境を整備する必要があります。

なぜならば、近年、大阪府市の文化行政の変化、インターネットやSNS等による情報発信のあり方の変化、少子高齢化による芸術文化の受け手や担い手のあり方の変化などにより、従来からの芸術文化を推進する枠組みを踏襲するだけでは、世代間やジャンル間交流が疎闊になり、芸術文化活動の継続や、新しい芸術の価値観を生み出す人材育成を充分に行うことが難しい状況だからです。

大阪・関西万博の開催決定、インバウンドの増加、さらには外国にルーツを持つ人々との共生などから、国際的な視点が文化振興のビジョンに求められています。また、都市の魅力をもっと高めるためには、全ての芸術文化に対するアクセシビリティへの配慮が必要です。

この状況をよりよい未来につなげるため以下の三点を提案します。

一つめに、これからの芸術文化を支える人材育成を行ってください。具体的には、若手及びミドル・キャリアのプロデューサー・アートマネージャー等の海外短期研修等と、各自治体の文化振興に関わる担当者の芸術文化の基本的な研修を連環させ、年度の枠を超えた企画を実施することを提案します。それを通して、芸術文化の現状に見合った文化振興の環境を整えてください。

二つめに、補助金・助成金制度を大阪の芸術文化がより活性化する形態、仕組みに改善してください。府民・市民、民間主体での大阪文化力向上のポテンシャルがある補助金・助成金制度について、その力を最大限に活かし、より多くの必要とする事業や活動に届き、かつより多くの府民・市民や、そこにつながる人々に波及するように、現場や時代のニーズを汲み改善する必要があります。改善の内容については、ワーキングチームを大阪アーツカウンシル部会に設置し、先行事例やアンケート調査等をふまえて、検討していきます。

三つめに、現行の事業評価制度が、より効果的に事業を推進し、さらには大阪の未来を語ることに活用できるように環境を整えてください。国内外の先行事例を参照しつつ、例えば、大阪アーツカウンシルと府市職員、事業に携わる方々が、現場で対話し、事業の成果や課題を共有できるような評価システムの改良を提案します。

以上を、2019年度から、順次開始してください。

(以上)